

開発途上国の「カントリーレポート」発表会開催

PREX
NOW

No. 117

September
2002財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

- page 1 レポート
開発途上国の「カントリーレポート」発表会開催
- page 2~3 セミナー
ハングラデシュ青年、関西での滞在を満喫
- page 4 レポート
世界に向け走り出すベトナム
- page 5 特集【各国研修員からのメッセージ】
トーゴ共和国
ソー・モクタール・ゴミ・バトゥさん
- page 6 PREXだより
事務局ニュース
9月実施の研修
コラム



PREXは、国際協力事業団(JICA)大阪国際センター、財団法人比較法研究センターと協議の結果、関西における国際的人材交流、情報交流を促進する一助とするために、国際協力事業団(JICA)主催の受入研修8コースにおいて研修員をパネリストとする「カントリーレポート」発表会を企画、実施する。日頃、事業推進にあたりご支援・ご協力いただいている企業・関係団体の方々に参加いただき、開発途上国のビジネス関連情報収集の機会として活用いただくことを目的としている。また、学生、市民の方の参加も歓迎する。

公開を予定している
「カントリーレポート」発表会

「カントリーレポート」とは各途上国研修員が、研修に参加するにあたり、自国の現状や課題についてまとめたもの。

<PREX実施>

テーマ	実施時期	パネリスト	会場	パネリストの参加する研修名
各国の輸出戦略と対日輸出促進の課題	11/7 10:00~16:00	各国(1)の輸出促進のための指導的な職務に携わっている行政官 9名	JICA大阪国際センターもしくは大阪市内	「日本市場マーケティングセミナー」
中・東欧諸国の投資環境と中小企業の現状	11/25 10:00~16:00	中・東欧諸国の中小企業振興担当部門を担当する行政官 9名	JICA大阪国際センターもしくは大阪市内	「中・東欧中小企業振興セミナー」
南アフリカの投資環境と輸出戦略	11/29 午後	南アフリカ共和国の輸出促進分野に従事する、商工会議所マネージャークラス、中央・地方政府職員 10名	JICA大阪国際センターもしくは大阪市内	「南アフリカ貿易促進コース」
モンゴルの中小企業の経営実態と将来の展望	12/6 10:00~15:00	モンゴルの中小企業経営者 10名	JICA大阪国際センターもしくは大阪市内	「モンゴル中小企業経営研修」
中央アジアの各国投資環境と民間企業の現状	2/13 10:00~16:00	中央アジアの民間企業経営者、民間部門振興に携わる行政官 9名	JICA大阪国際センターもしくは大阪市内	「中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー」
中国の投資環境と中小企業促進法	3/27予定	中国の各省生産力促進センター職員、科学技術部職員 10名	JICA大阪国際センターもしくは大阪市内	「中国中小企業振興コース」

問い合わせ先 太平洋人材交流センター(PREX) Tel.06-6441-2650

1 インド、トンガ、ヴァヌアツ、アルゼンティン、ヴェネズエラ、チリ、ボリビア、エクアドル、エル・サルヴァドル、タジキスタン

<比較法研究センター実施>

テーマ	実施時期	パネリスト	会場	パネリストの参加する研修名
国際知的財産法制の新世代へ混迷中の進化	7/25 10:00~17:00 (実施済み)	各国(2)の知的財産系制度の政策立案・推進担当の上級行政官等 8名	法務省法務総合研究所国際会議室	「国際知的財産権コース」
中国の知的財産権制度の課題	11/20頃	中国の知的財産系制度の政策立案・推進担当の上級行政官等	JICA大阪国際センターもしくは大阪市内	「中国知的財産権コース」

問い合わせ先 比較法研究センター Tel.075-315-9924

2 ブラジル、中国、エジプト、インドネシア、フィリピン、タイ、ウルグアイ

協力団体 / 関西経済連合会、大阪商工会議所、東大阪商工会議所、八尾商工会議所、吹田商工会議所、京都商工会議所、海南商工会議所
各発表会の開催要領は、開催の約1カ月前に上記協力団体を通して案内。またPREXホームページにも掲載する。

バングラデシュ青年、関西での滞在を満喫

バングラデシュから来日した14名の青年が7月8日～23日の16日間、関西に滞在した。これは日本政府が1984年から取り組んでいる「青年招へい事業」によりPREXが受託し実施したもので、研修テーマである中小企業経営分野とならんで、合宿セミナー、ホームステイを含むプログラムとなっている。日本が培ってきた知識やノウハウの移転にとどまらず、その背後にある日本人々について交流を通して深く知る機会を設け、両国が真の相互理解に基づく友好関係を深めることを目指している。



バングラデシュは1971年に独立した新興国。国民は98%がベンガル人で、イスラム教国である。日本の約4割の広さだが、そこに1億3千万の国民が暮らしている。国は新しいがこの地域の伝統は古い。仏教で馴染み深い恒河、つまりガンジス川はこの国からベンガル湾にそそいでいるが、仏教の中心地のひとつとして、大規模な僧院も置かれていたため、仏教遺構も多い。近代になってからも詩聖タゴールを出すなど、豊かな文化を誇っている。残念なことに独立以来政情は安定せず、初期には暗殺やクーデターが相次ぎ、その後も激しい政党間の権力闘争により破壊活動を伴う暴力的ストライキが頻発し、そのたびに経

済は麻痺状態に陥った。しかしそのなかでも経済発展への努力は続けられ、長い目で見れば着実な経済成長を遂げている。

今回来訪した青年はバングラデシュ輸出振興局や商工会議所、政府系保険会社などで局長補佐、部長補佐などを務める24～35歳の若きエリートで、英語を自分の言葉のように話す、富裕層の出身者であるが、とかく印象に残ったのは青年たちの素直さと真面目さであった。関西の滞在期間は16日のみ。そこへたくさんの予定を盛り込む必要上、無駄なく、わかりやすく、内容豊富なプログラム編成に勉めた。幸い一流の講師の先生方や訪問先のご協力

を得て、理想的なスケジュールを組むことができたが、青年たちは常に熱心にメモを取り、夜はその日に学んだことをお互いに確認し、討議するなど、この機会を最大限生かしていた。合宿セミナーの日本側参加者やホームステイ家庭にも恵まれたため、稔り多く、思い出深い訪日とすることができた。 国際交流部 課長代理 植田 真哉

お世話になった企業・団体他

(訪問順・敬称略、本文中記載分は除く)

サミットラボ 杉村光二代表、山岡金属工業、松下電器産業、三輪そうめん山本、中京大学 寺岡寛教授、梅田真空包装、大阪企業家ミュージアム 竜門加珠子氏、熊本学園大学 木曾順子教授、大阪府庁、大阪商工会議所、大阪府中小企業支援センター、ユニチカ記念館、ソフト産業プラザイメディア、IT総合研究所、EMSデータ、松尾捺染

合宿セミナーでバングラデシュ経済の変化をテーマに基調講演

熊本学園大学 木曾 順子教授

バングラデシュが独立して30年余り。今も最貧国というラベルははりついたままだが、この国にもさまざまな変化が生じてきた。緩やかながら経済は成長を続けており、人口増加率の低下や識字率の上昇など社会開発も進んでいる。農業では1990年代前期に続いて2000年度にも再び穀物自給の達成が宣言され、製造業品の輸出も極めて脆弱な基盤の上ではあるが目覚ましい。また、女性の経済活動への参加がさまざまな場面で見られることは、10数年前の状況を思えばまさに驚きだといえる。しかしそうした変容の一方で、国際機関や日本をはじめ各国からの援助に依存して行われている援助依存型開発の構造に大きな変化はない。政情安定化への道もなお険しいといわざるをえない。高層建築ラッシュと人口の過密、そして煤煙、排気ガス、騒音等に喘ぐ首都ダッカの姿は、いわゆる近代化を想起させるよ

りもその混沌が目眩を感じさせるほどである。そして何より先看過できない問題は、貧困層の絶対的な規模の大きさであろう。

講演はおよそ以上のような内容で進めさせていただいた。バングラデシュ人にとっては恐らく言わずもがなの内容が、日本人にとっては不可欠な内容であることもあり、バランスの取り方に苦慮することもあった。さらに、通訳を挟んで2時間と長丁場であった上に、やや難解な専門的内容も含まれていたため参加者の疲労は倍増したかもしれない。しかし、それにもかかわらず両国の参加者とも大変熱心に聞いていただき、私の拙い講演も研修参加者の熱意に救われた。

ところで、翌日のグループ・ディスカッションにも少しだけオブザーバーとして参加させていただいた。活発な意見交換が行われ、また和気藹々かつ双方胸襟を開いての議論はなかなか興味深いものであった。ただ惜しむらくは、客観的な情報の不足だろうか。客観的な知識を欠き、個人的な情報が一般的情報として理解されそうな危うさは感じた。議論のテーマが生活や労働から経済まで多岐にわたっていた

ため、それら全てにわたって情報を提供することは難しいだろうが、両国の法・制度・慣習などごく基礎的な知識を共有した上で質疑応答や意見交換ができるならば、互いにもっと納得ができ理解を深めることができるのではないかと思われる。言い換えればバングラデシュ経済に関する私の基調講演だけでは議論のたたき台として不十分だったということで、私自身その点反省されるのだが。

和歌山の緑豊かな環境の中で、膝を交えての議論や、食卓を共にする機会が、両国の青年達にとって、相互理解の機会になるとともに、それぞれの現実を改めて客観的に見つめ直す機会になるのだとすればすばらしいことだと思う。



合宿セミナーで「バングラデシュ経済 変化の鼓動」をテーマに両国の参加者に基調講演する木曾先生



ハングラデシュの民族衣装で大阪府庁への表敬訪問。
大阪府国際交流監 東氏を囲んで記念撮影。



松尾捺染(株)を訪問。ハンカチーフプリント量
世界一を支える技術説明に耳を傾ける青年たち。



合宿セミナーで日本人青年とハングラデシュ青年
合同でそれぞれの生活様式、価値観、両国の今後の
発展と両国の交流についてグループ討議を行った。

ハングラデシュ青年との合宿セミナーに参加して



関西電力株式会社 八幡領 光隆さん

【社会人】(しゃかいじん)をインターネット辞書で検索してみると

(1)学校や家庭などの保護から自立して、
実社会で生活する人。

(2)社会を構成している一人の人間。/大辞林(国語辞典)
とできました。

私は現在の会社に入社した当初は「自立して生活する人」を
目標にしておりました。当然家庭や学校といった温々とした環境
からでてきたばかりでは、自立したとは言い難いものです。

しかし、最近では社会人になってからできた友人との付き合い
や大人としてのある程度の蓄えを持ってくと、私自身が社会構
成のどの部分に該当するのかが肌で感じたくなくなりました。私
には仕事があり、その社会的必要性を生産しているわけですから、
これまででも社会構成員であったことは間違いありません。ただ、
サラリーをいただくことによって、社会構成員としての自覚を感じ
ることができなかつたと思います。

「青年招へい事業」への参加は昨年のベトナムからで、今回
のハングラデシュが2回目です。英会話もおぼつかない私が、こ
ういった国際協力のボランティアに臨んだのは最近の心境の変化
によるものです。

「青年との合宿セミナー」ですが、海外から参加してくる同世代
の青年達は、その国にとって、とても大切な人材であり、優秀な方
が訪れます。事前説明会の時点で、彼等のプロフィールを見まし
たが、学歴、現在の地位、まるでVIPとディスカッションするよう
なものです。通訳を通じて話が噛み合うかが不安でありましたし、
彼等が何も得るものもなく帰国してしまうのではないかと心配しま
した。

しかし、実際に話をしてみると、通訳もわかりやすく、彼等もと
もフレンドリーで日本のことを学ぼうという姿勢であったと思いま
す。セミナー期間中は彼等と同じ部屋で寝て、食事も一緒、風呂
も一緒でした。2泊3日のそういった家族のような環境の中で、彼
等は日本の作法や文化、挨拶、習慣、楽しみ、味覚、携帯メール、
箸の持ち方を学び、私たちは彼等の考え方や宗教、歴史、豊かな
国土と資源、腋臭とジョークを教えられました。

少なくとも今回のセミナーを通じて、彼等は私達から何かヒント
になるようなことを得たのではないのでしょうか?そうあってほしいと思
います。そして、彼等が母国で活躍し、生産性を向上させることが
できたなら、私は社会構成員としての成果と満足感を感じること
ができるのではないかと思います。

世界の友人とPREXに感謝!



和歌山県伊都振興局県民行政部総務課・ 青少年担当 山田 啓之さん

「Your Brother (True Mean)」合宿セ
ミナー最終日、彼らのうちの一人、私と同室だ
った青年からもらった手紙の最後にはそうあった。この手紙を読
んだとき、私は心からセミナーに参加して良かったと思った。

今回の合宿セミナーに参加する前、私がハングラデシュに対し
て持っていたイメージは決して良いものではなかった。しかし、セ
ミナーに参加し、実際に来日した青年達との出会いを通して彼らと
彼らの国に対する考え方は一変した。彼らは自分達の国に対し
て溢れんばかりの誇りと使命感を持っていた。多くの日本人が失
いつつあるものを彼らは持っていたのである。

彼らは自分達の国と日本とを比べ、とにかく日本を賛美する訳
だが、私には日本を理想の国と言う彼らの言葉に単純にうなずく
ことが出来ず、反対に彼らの祖国への熱い思いに感動を覚え、
青年招へい事業を通じて日本で学び、祖国の発展に貢献するの
だという彼らの思いに応えなければならないと、改めてセミナーに
参加する日本側青年の一人として、その役割と責任の重大さを
実感したのであった。

彼らはまた一様に「日本が好きだ」と言ってくれた。これは私に
とってこの上なく嬉しい言葉だった。お互いに相手の国を「好き」
と言えるような関係を築いていくこと、また心から相手の国を「好
き」と言える人を一人でも増やしていくことが何よりも大事でない
だろうか。宗教的、文化的に私達には違いはある。だが、その違
いを違いとして受け容れ、お互いに相手のことを理解する。それが
国際化が進む現代社会において最も必要とされる「ひとづくり」
なのではないだろうか。

世界に向け走り出すベトナム

今回、研修ニーズ調査(中小企業政策を中心)と帰国研修員のフォローアップを目的に国際交流部大塚と田中の2名で7月中旬にベトナムを訪問した。訪問地はホーチミン市とハノイ市で、JICA関係者をはじめ多くの方々のご協力を得て、予定通りスケジュールを達成する事ができた。最近のベトナムの経済はGDPが毎年ほぼ6%前後の成長を示し、輸出も順調に伸びているものの、AFTA(アセアン自由貿易地域)による関税引き下げの義務(2006年)に向けた経済競争力基盤の強化、さらに昨年末に発効した越米通商協定を実のあるものにするための対米輸出競争力強化が急務となっている。ベトナムでは昨年に行なわれた第9回共産党大会で社会経済発展5か年計画を採択し、その中でGDP成長率の目標を7.5%に設定し、現在その達成に向けた種々の努力がなされている。

中小企業政策の現状

ベトナム政府は2000年1月に「企業法」を公布し、企業設立手続を簡素化した。この法律で2000年だけでも35,000社が起業し(それまでの9年間とほぼ同等数)、経済の下支えとなっている。訪問したホーチミン市の役所前では、朝から企業設立申請に来た人達10人ほどが開門待ちをしていた。しかし、設立される会社は商業・サービス的なものが多く、経済活性化に寄与しているものの、経済の基盤強化に繋がっているのかどうか疑問である。昨年11月に「中小企業支援に関する政令」が公布され、それに基づいて中小企業振興局、中小企業信用基金、中小企業技術支援センター等の設置準備が積極的に進められている。これらの部門の職員、さらに関係地方職員の教育が急務となっており、訪問中にもその教育に関する具体的相談を随所で受けた。これらの政策は国が必要とする中小企業、その中でも特にサポートインダストリー(機械金属産業)を育成することが目標である。

中小企業の現状

企業3社を訪問したが、うち1社は国の指示により国営企業から民営企業に移行中で、これまでの主な企業活動は薬草と食品缶詰の生産だったが、今後は市場調査から販路開拓までをも含めた広範囲の活動への転換を余儀なくされていた。ベトナムでは企業経営等に関するセミナーは頻りに開催され、経営者は理論面での知識



ベトナム日本人材協力センター(ハノイ)。今年3月開所。床面積1,515㎡。



国営企業リクシンパッケージ会社。食料品などの包装材生産現場。

はかなり習得しているが、上記のように「消費者ニーズの把握、それに即した製品開発、どうやって運ぶかのロジスティック、どうやって売るかの販売路開拓」と言った市場経済での実際の応用面を学びたいとのことだった。特に、厳しい市場で揉まれてきた日本の企業人に、セミナーを通しこれらを教えて欲しいと随所で要望された。

ベトナム日本人材協力センター

日本の協力によりベトナム日本人材協力センターがハノイ市とホーチミン市の2箇所に開設された。

当センターでは企業経営、経営環境等をテーマにした市場経済化の為に人材育



帰国研修員との懇談。前列右端がPREXベトナム同窓会長のフォー氏。前列中央が筆者大塚。

成を目的にセミナーが開催され、それ以外にも日本語教育や日越文化交流等がなされ、今後の日越間の人的交流に大いに寄与するものと思われた。

ベトナムのさらなる発展のために

1970年代に発展途上だった韓国に3年間駐在した経験のある筆者から見みると、ベトナムの現状は経済競争力基盤の強化に向けた国家としての一枚岩のポリシーと戦略、それをやり遂げる為の強い決心が、まだまだ弱いように感じられ、ベトナムが今後発展していく為にはこれらの強化が必要不可欠な条件ではないかと思われた。

国際交流部 担当部長 大塚 迪夫



トーゴ共和国 ソー・モクタル・コミ・パトゥさん

トーゴ中小企業・中小産業団体財務担当 / 全国経営者評議会副事務局長

2001年度「仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー」に参加

トーゴの中小企業振興への取組み

トーゴ共和国経済は、1994年～1997年のマクロ経済の安定化政策によって、包括的には改善が見られましたが、いまだ構造的な脆弱さに苦しんでいます。この状況に対して、国民の生活レベルを向上させるため、プレントゥワズ機関および資金拠出者からの協力を得て各種の措置が講じられています。

トーゴ共和国は、西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)に加盟し経済の自由化をはかっています。また民間部門振興に関しては「トーゴ商工会議所」、「全国経営者評議会(経団連)」がその役割を担っています。中小企業・中小産業分野においては、「トーゴ中小企業・中小産業団体(GTPME)」が、中小企業・中小産業の利益を擁護し、政府の承認を得て、これらの企業の育成プログラムを立案する唯一の職業団体となっています。これは1987年に設立された団体で、商工・運輸・自由地帯拡大省の管轄にあり、企業支援プロジェクトとして、企業に対し技術・商業・法的分野の情報提供となるデータバンクの作成を行っています。

「トーゴ中小企業・中小産業団体」は、「全国経営者評議会(経団連)」と連携し、トーゴの企業が抱える問題を関連当局に報告するなど経済的問題の解決を図っています。また、国際見本市の準備や各分野における研修に際し、会員の指導を行ったり、企業内リスクの定義や規制に関する研修ワークショップを立案したりしています。

日本でのセミナーの成果

国自体が現在経済的困難に見舞われているため、トーゴの中小企業も極めて厳しい状況に置かれています。しかも、中小企業の幹部自体も企業経営やマーケティングの知識が乏しいので、この2分野での研修が必要です。政府の改革にも関わらず、トーゴの民間部門が置かれている状況はビジネスの不安定さ、煩雑な手続き、産業および中小企業・中小産業に対する支援の欠如、商工業活動に関する法律が時代錯誤であること、銀行融資を受けにくいなど、依然として未整備な状態にあります。

セミナーでは、日本経済がどのように発展してきたのが実際に自分の目で見、そしてアフリカとは異なる日本の生活に触れることができ、私達にとって意味のある国際協力だったと思います。研修後、日本で学んだことをもとに、トーゴが抱える中小企業政策の課題についてプロジェクトをつくり、取り組んでいます。また人材育成のための研修プログラムをウェブサイトで公開できるよう準備をすすめています。



事務局
ニュース

大阪経済記者クラブとの懇談会を開催

7月9日12:00～13:30、PREX会議室においてPREX井上義國会長（ダイキン工業株式会社顧問）と大阪経済記者クラブ記者との懇談会を開催。7社10名の記者が参加した。懇談会では、今年度初めて実施する「カンントリーレポート」発表会の公開や、PREX独自の国際交流事業として実施する「マレーシア同窓会セミナー」、ベトナムとモンゴルへのニーズ調査について報告。また井上会長はPREXのアフリカへ支援の方向についても見解を述べた。

研修実施にむけ運営委員会方式を実施

PREXは、今年度より、研修の効果的な実施運営を図るため導入された運営委員会に事務局として参画している。運営委員会では、各研修テーマや対象地域の専門家から研修カリキュラムの編成や、コース運営等に必要な助言をいただいている。主催は国際協力事業団（JICA）で、運営委員会を実施している研修、研修実施時期、運営委員会の委員長は以下のとおり。詳細は各研修報告時に紹介予定。

「救急・大災害医療セミナー」

（8/28～9/13実施）

大阪府立千里救命救急センター副所長 甲斐 達朗氏

「中・東欧 中小企業振興セミナー」

（11/25～12/13実施）

中京大学経営学部 教授 寺岡 寛氏

「ボスニア・ヘルツェゴヴィナ中小企業振興コース」

（2003年1/20～2/7実施）

中京大学経営学部 教授 寺岡 寛氏

「ブラジル・助産所における出産時ケア」

（2003年1～3月実施）

大阪大学大学院人間科学研究科 教授 中村 安秀氏

「中国中小企業振興コース」

（2003年3/3～28実施）

神戸大学 国際文化学部 教授 石原 享一氏

マレーシア、マハティール首相
演説集でPREX紹介

マレーシアで発行されたマハティール首相の演説集「MAHATHIR MOHAMAD ~ A VISIONARY & HIS VISION OF MALAYSIA'S K-ECONOMY」では、PREXの人材育成への取り組みを高く評価した演説を掲載している。これはマハティール首相が、2000年2月の「関経連アセアン研修20周年記念国際シンポジウム」において「Human Resource Development in the 21st Century」と題しておこなったもので、「アジア各国が目指す知的集積型経済の達成には人材育成が不可欠。PREXは大きな役割を果たしている」と演説した。なお、マレーシアでは1992年にPREX研修参加者によるマレーシア同窓会が設立されており、会員は239名に上っている。会長はマレーシア戦略国際問題研究所日本研究センター所長のスティーブン・リヨン氏。



9月実施の研修

「アセアン海外研修」を実施（遠隔研修）

日時 9/30～10/4

参加者 各地50名

開催地 タイ王国 バンコク、チェンマイ

内容 国際競争力向上のための経営改善

C O L U M N

「ここはどこ？」のベトナムホーチミン市・変わらないハノイ市

国際交流部 田中 綾子

今回のベトナムニーズ調査（本紙4頁詳細報告）でホーチミン市を訪問するのは4年ぶりだった。ほとんど市内を歩き回る時間などなかったハードな調査だったが、1日だけ自由な夜があり、タクシーで市内に食事に出かけた。筆者は学生の頃ホーチミン市に留学していたので、ほとんど市内の道路は知っているつもりだったが、新しいビル、お洒落な店やカフェが増え、周りの景色が全く変わり、様変わりしていた。「数ヶ月で全く変わるベトナムだから、4年ぶりなんて全く違う国に行くようなものだよ！」とベトナムを良くご存知の方に出張前に言われ、そうかな～などと思っていたら、ここはどこ？私はどこにいるの～？状態で、少々寂しい気がした。

その後に訪れたハノイ市は、訪れるのは3年ぶり。ぱっと見には余り大きくは変わっていなかったが、所々にお洒落なブティックができていたり、ベトナム人の服装がお洒落になったなあ、という印象は持った。ハノイでは少し時間があつたので、3年前とそれほど変わったとは思えない雑然とした市場や、それとは対照的な、近代的なスーパーマーケットの西友に行き、お土産を購入した。西友の中は、日本とほとんど変わらず、ホントにベトナム人が買うの？と思われる、野菜などを4分の1に切ってパックしたものや、海外のお菓子などが並べられていた。日本ほどお客さんが入っていないのが気になったのだが……

とても久しぶりのベトナムであったが、現地に行って実際に見聞し、その場の空気を感じることができ、大変良い経験となった。



ハノイ市西友のそばにあった市場で
値段交渉を試みる筆者田中

編集・発行

財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事 三田 昌孝

大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル24階
〒530-6691（中之島センタービル内郵便局私書箱60号）

TEL 06-6441-2650
FAX 06-6441-2640

ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
電子メールアドレス: prex@prex-hrd.or.jp